

参考資料

6 ふじみ野市教育研究会

I はじめに

本会は、ふじみ野市が生まれた翌年、平成18年5月17日に結成された。小学校13校、中学校6校、合計19校の教職員が参加している。会員数は487名で、会員の資質向上と親睦をはかり、ふじみ野市教育の進展に寄与することを目的とし、日々活動を行っている。

ふじみ野市では、「あったかな絆ではぐくむ『共育』を目指して」を基本理念とし、家庭、地域、行政と一緒にとなった地域協働学校としての活動に力を入れている。



II 本教育研究会の組織

各校の校長の指導・助言の下、それぞれの教科主任や領域主任が教育に関する研究調査、授業研究会・研修の開催、そして、その他講演会など教育の振興に必要な事業を行っている。

III 特色ある研究活動

1 ふじみ野市教育研究会講演会の開催

会員研修の一環として、毎年講演会を開催している。

本年度は、「子どもの事実から学校づくりを問い合わせませんか」と題目で元大阪市立大空小学校初代校長の木村 泰子 氏によるオンライン講演会を実施した。

「指導は一瞬で暴力に変わる」「人の力を活用する力をつける」といった様々なキーフレーズをもとに、「合理的配慮」とは何か、子どもを主語とした教育についてお話し下さいました。

次年度は、「子どもの自律を支える学級経営～生

徒指導の手法・保護者対応～」というタイトルで教育アドバイザーの工藤 勇一先生にご講演いただく予定である。

2 地域の公民館や体育館における展覧会開催

市内の小・中学生の作品を展示したり、発表したりすることを通じ、技能を高めたいという児童生徒の意欲の向上に役立てている。

- ① 硬筆展・書きぞめ展（書写）
- ② 小・中学校社会科展（社会科）
- ③ 小・中学校科学教育振興展覧会（理科）
- ④ 発明創意くふう展（家庭科）
- ⑤ 市内音楽会（音楽科）
- ⑥ 英語暗唱弁論大会（英語科）
- ⑦ 身体障がい者福祉のための美術展（美術科）
- ⑧ 郷土を描く美術展（美術科）
- ⑨ 埼玉県児童生徒美術展（美術科）
- ⑩ 児童会・生徒会交流会（特別活動）

各展覧会の会場は公民館や資料館、市民体育館で開催され、児童・生徒、保護者のみならず地域住民にも広く鑑賞していただいている、地域に開いた試みとなっている。

3 民間施設のプールを利用した水泳授業

ふじみ野市教育委員会が民間のプール運営会社とバス会社に手配を行い、児童生徒は徒歩あるいはバスで民間施設のプールを利用した水泳授業が行われている。

令和5年度は、約半数の学校で先行実施を行い、その成果を踏まえ、令和6年度から市内19校すべてで実施されている。

初めての取組となる小・中学校では、体育部会における一斉主任会や授業研究会などで、時間割の組み方や体育の授業の在り方、教員の動線、先行実施校の取組による課題など具体的な実施策に関する情報共有がなされた。

4 英語弁論大会

英語部会では、2市1町（ふじみ野市・富士見市・三芳町）の中学生を対象とした英語弁論大会を行っている。

英語部会では、7月に主任研修会及び弁論大会審査基準確認会を実施した。9月には市内、そして2市1町の英語暗唱弁論大会を実施した。

各校の生徒たちは、それぞれの学校で練習を重ね、その成果をのびのびと発表する場となっている。

5 市内音楽会・音楽鑑賞教室

音楽部会では、各校の小学校、中学校の代表学級を対象として、市内音楽会を年1回実施している。

音楽会や合唱祭といった試みの集大成として位置付けられ、自分の学校以外の児童生徒の演奏を聞くことで、豊かな情操が培われている。

また、音楽鑑賞教室はふじみ野市教育委員会と共に実施した。市内の小学生が貸し切りバスで移動し、東邦音楽大学の学生オーケストラの演奏を視聴し、児童の情操を高める機会となっている。

6 研究会・研修

本会には研究部が29あり、それぞれの部で授業研究会を行っている。各部とも市内の学校を輪番で実施し、それらを通して小・中学校の連携もはかられている。また、各教科・領域の主任研修会が実施されるほか、下記のとおりの研修も行われた。

- (1) 硬筆及び書きぞめ市内審査会
- (2) 硬筆及び書きぞめ指導法に関する研修
- (3) 書きぞめ市内審査・指導法に関する研修
- (4) 英語科研修会、弁論大会審査基準確認会
- (5) 英語科入間地区授業研究会
- (6) 県技術家庭科教育研究会
- (7) 技術・家庭授業研究会・プログラミング研修会
- (8) 埼玉県技術家庭科教育研究会
- (9) 中高英語教育連絡協議会授業研究会
- (10) 入間道徳夏季研修会
- (11) 入間地区特別活動研究会、西部地区夏季研修会
- (12) 入間地区特別活動研究会授業研究発表
- (13) 総合的な学習の時間部会授業計画情報交換会
- (14) 入間地区社会科教育研究会夏季セミナー
- (15) 教育心理・教育相談研究会
- (16) 学校食育授業研究会・研究協議会
- (17) 人権教育授業研究会・研究協議会

7 入間地区算数・数学科力調査

教育の振興に必要な事業として算数・数学に関する研究調査を実施し、児童生徒の実態を把握し、その指導に役立てている。

IV 終わりに

最後に現状の課題と今後の展望について記す。

1 入会について

本会は入会または退会等各会員の任意にまかせている。そのため、参加を強制することはできない。

また、配置人数が少ない学校にとっては、29全ての部会に会員を充てることが難しかったり、本来会員が希望している部会に参加できていなかったりする現状も散見される。

そこで、「参加したくなる」団体を目指し、魅力ある取組を創出する必要がある。従来実施してきた事業の教育効果を再検証・精選し、Society5.0時代の到来に即した事業への選択と集中を行い、理事会や各部会で共有、来年度につなげていくことが必要である。

2 事業のスリム化

29もの研究部から成り立っているため、小規模校では、いくつもの主任を兼ねなくてはいけないという現状がある。

さらに、教育委員会主催の研修会もあるため、職員の出張等負担がより大きくなっている。

今後は、教育委員会と調整しながら、ハイブリッド型研修の導入など事業のスリム化を検討していくたい。

3 集合型とオンラインによる研修会の実施

令和5年5月に新型コロナウィルスの5類移行を機に、徐々に集合型の研修会が増え、新型コロナウィルス感染防止以前に戻ってきている傾向が見られる。

一方、オンライン研修にすると移動時間や出張旅費の削減につながるという利点がある。

しかし、オンライン研修会では、画面越しのためお互いの表情や雰囲気を読み取りにくく、会話が進まなかったり、かみ合わなかったりするということもある。

また、複数人が同時に発言すると聞き取れない場合もあるなどの課題も見られる。

今後は、研修会の内容や参加者の人数等を考慮し、有意義な研修会を実施できるように実証と検証を重ねていくことが重要である。